

今年度に入って、今朝は3回目の洗礼式（病床洗礼式を含めれば4回目）が行われます。岡千晴姉、橋本ひなた姉、山田薫姉、そして福井佳子姉、中嶋道代姉、姉妹方の新しい歩みに、心から祝福を祈ります。

復活の喜び

2018年8月19日に、ヘブライ書の講解後に始まった、ルカによる福音書の講解も、残すところ、あと3回です。7年間は、あっという間にも、随分長かったようにも思います。福音書の終わりは、必ず復活のメッセージが待っています。しかも、ルカは、さらにこれで終わりではなく、使徒言行録という第二巻の始まりです。

私たちの人生は、やがて死を迎えます。この地球から旅立つ時がやってきます。そしてそれまでも別れや病、つまり関係を失ったり、身体能力が奪われたりします。しかし福音は、その先を私たちに告げています。それが、今朝のテーマ、復活です。

イエス様も、エルサレムで処刑されました。悲劇は、起こってしまいました。クレオパは、イエス様の叔父とも言われています。大活躍するはずの甥の夭折に、深い心の傷を負って、下を向いて、誰の顔も見ないで、歩いたのではないのでしょうか。他でもないイエス様が、声をかけて、一緒に一日歩いても、気づかなかったのですから。しかし、復活の奇跡は現在進行形で、本人たちが気づかないうちに、起こり始めていました。

イエス様は、不思議な力で、二人の心を暖めました。姿が見えなくなっても、信じる信仰を、与えられたのです。喜びに満ちたクレオパたちの行動は、奇跡のようでした。立ち去ったエルサレムに再び引き返し、他の弟子たちに復活を証ししたのです。

無理に引き留めて

クレオパたちが、イエス様に出会ったのは、エマオへの途上でした。しかし、それがイエス様だったのだと理解したのは、そのだいぶ後でした。この時間差に注目しましょう。私たちにも、同じことが起こるからです。まず、イエス様の方から、私たちの方に近づいてきてくださいます。そして、私たちは心温められ、希望が与えられます。しかし、本当の意味で、目には見えないが共におられるイエス様と、対面する体験をするのは、だいぶ後なのです。それは、弟子たちが「無理に引き留めた」とあるように、その人自身が、熱心に求めて、願い求めるときに、与えられる邂逅（特別な出会い）です。

「友の顔を見分けられないうちは、まだ夜なのだ」というラビの格言があるそうです。イエス様の臨在を体験することは、切に求める人に与えられる、感激の再会です。喜びに満ちるのは、罪と死の夜があけ、救いと復活の朝が訪れたことを知るからです。

感激の再会は、私たちが熱心に求める先に与えられる、最高の瞬間です。この喜びは、悲しみのどん底にあっても、私たちを絶望の淵から引き上げてくださいます。